

人工知能（AI）を活用した 病害虫診断技術の開発

生産者等がモバイル端末等を使って作物病害虫を撮影し、携帯電話回線等によってAIと情報の送受信を行う、病害虫の画像診断システムの開発を行っています。京都府では、AIに学習させるためのナス病害虫画像を様々な条件下で撮影しています。

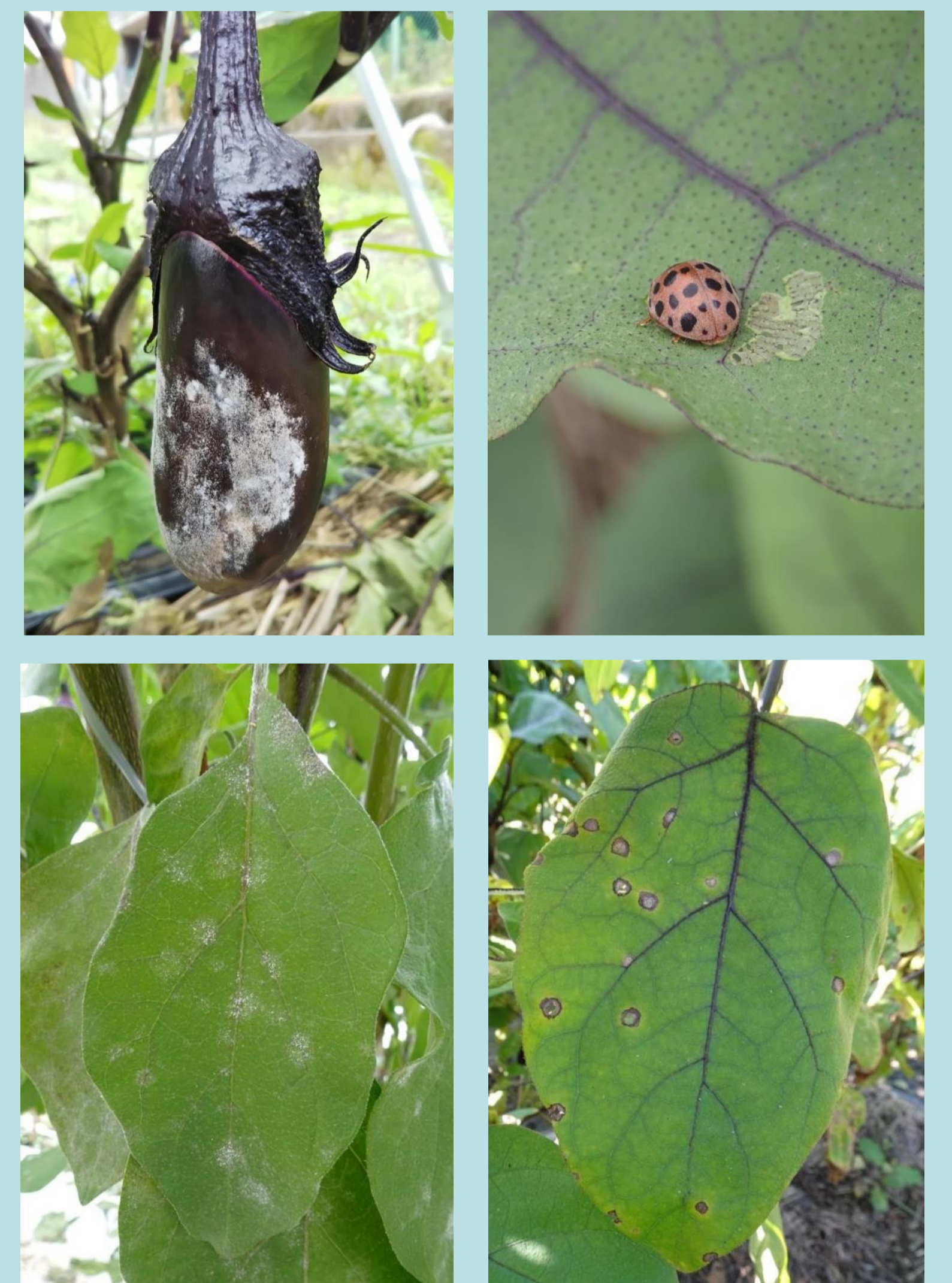
<研究体制概要>



- 農研機構、関係府県、民間企業、大学により構成
- データ収集、技術開発・検証、普及・実用化を一体で行う

<京都府での取組>

- ナスの主要な病害虫10種を、過去の病害虫発生予察の調査データから選定
- 接種、放飼により発生または自然発生した病害虫を調査、撮影
- 電子画像を病害虫の種類、被害程度、作物部位別に分類、それらの情報を付加



スマートフォンで作物病害虫を撮影し、AIによる診断結果を得られるアプリケーションが開発され、現場での病害虫診断を簡便に行えるようになります。

本研究は 農林水産省委託プロジェクト研究「人工知能未来農業創造プロジェクト」「AIを活用した病害虫診断技術の開発」の支援を受けて実施しています